

## ※ 重要なお知らせ ※

次号(75号)より、本会報はメルマガでの配信となります。

印刷物の郵送はありません。また、HPより閲覧も可能です。  
閲覧パスワードは追ってお知らせいたします。



### 事務局からのお願い

会報やジャーナルの発送の際に、返却されるケースが多く発生しております。新年度になりましたが、住所、所属先等の変更がある場合は、Mail 添付にて事務局までお知らせください。また、退会の手続きに関しまして、同様に「退会届」を Mail 添付にて事務局までお送りください。

国際幼児教育学会事務局：iaece.office@gmail.com

### 会員の方からの原稿を募集しています

- 1) 海外の幼児教育の現状の紹介
  - 2) 日本語で読める海外の幼児教育著書の紹介
- ※ 字数 300 字程度 (Word MS 明朝 10.5)

所属を明記の上、下記アドレスまでご応募ください。  
今後の会報に使わせていただきます。

岡本 礼子：okamotoreiko2010@yahoo.co.jp

発行人：中坪 史典  
企画編集人：岡本 礼子 岡本 千春  
岩手 萌子 津島 ひかる

発行所：国際幼児教育学会 事務局  
〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1  
神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育科  
E-mail：iaece.office@gmail.com

www.iaece.org

# IAECE 2022 News Letter

International Association of  
Early Childhood Education

国際幼児教育学会  
会報 74 号

2022.5  
<http://www.iaece.org>



- P.1 巻頭言 Noriko Saito
- P.3 学会功労賞 受賞者報告
- P.4 研究奨励賞 受賞者報告
- P.6 第43回大会のお知らせ
- P.7 バーチャル保育園見学ツアーの提案
- P.8 委員会報告
- P.9 部会報告  
支部報告
- P.10 事務局より

## Early Childhood Education Facing Volatile World Situations California State University Noriko Saito



Finally, we are reaching to the end of the Covid 19 pandemic situation, and we thank all scientists and their discoveries of vaccinations which lead to the decline of suffering over two years globally.

The next IAECE (International Association of Early Childhood Education) virtual conference theme is the "Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標 (SDGs)." ."

Why is environmental sustainability important?  
Because SDGs improves the quality of our lives, protects our ecosystem and preserves natural resources for future generations. There are the 3 principles of SDGs which are the economy, society and the environment.

Under the SDGs are a collection of 17 interlinked global goals designed to be a plan to achieve a better and more sustainable future for the whole world. The SDGs were set up in 2015 by the United Nations General Assembly and are intended to be achieved by the year 2030.

The 17 SDGs are: (1) No Poverty, (2) Zero Hunger, (3) Good Health and Well-being, (4) Quality Education, (5) Gender Equality, (6) Clean Water and Sanitation, (7) Affordable and Clean Energy, (8) Decent Work and Economic Growth, (9) Industry, Innovation and Infrastructure, (10) Reduced Inequality, (11) Sustainable Cities and Communities, (12) Responsible Consumption and Production, (13) Climate Action, (14) Life Below Water, (15) Life On Land, (16) Peace, Justice,

and Strong Institutions, (17) Partnerships for the Goals.

As I was wondering and thinking how I can put or digest all these ideals into the education of young children and its classroom practices and their daily life, Russia initiated to interfere with Ukraine's sovereignty. The conflicts are growing day by day.

UN (United Nations) currently made up of 193 Member States which includes the permanent membership of the Russian Federation. Ukraine is also a member of such UN bodies as the Economic and Social Council, the Human Rights Council, the Commission on Social Development, the Commission on Population and Development.

This volatile situation today faces dilemmas and questions the purpose of UN Security Council and of SDGs. We are facing the critical challenges and responsibility as human beings and as educators.

I have so many things to express as a person who experienced WWII, Korean War, Vietnam War, Cold War, and I witnessed the nuclear power of atrocity in Hiroshima and Nagasaki. No one wins in a war, except creating more human suffering. It is now the 21st century, and we have been striving for many years to have a better and peaceful world. We know it is very complex with political and economic issues and concerns, but human beings have the cognitive ability to progress and overcome! I can go on writing about many issues and solutions; however, I would like to conclude my writing with the words of Thomas Jefferson and the words of Jean Piaget which give us in depth and critical thinking and provide some insights for solutions to society and educators.

In 1776 Thomas Jefferson wrote about the right of human beings in the Declaration of Independence. "All human beings are created equal, and each one of us has an absolute right including Life, Liberty, and the Pursuit of Happiness." I am wondering if this is the right of human beings pertaining to those only in the United States of America or to the entire world.

Jean Piaget once said that "The principal goal of education is to create men(human beings) who are capable of doing new things, not simply of repeating what other generations have done—men(human beings) who are creative, inventive, and discoverers."

We do not repeat the mistakes we made in the past generations, or we have to learn from the past mistakes. We must be creative to make a peaceful world! We as educators of young children have the responsibility to come up with creative and innovative ideas for the education of young children. I believe thinking starts with early age!

This coming IAECE virtual conference, I am very much looking forward to listening for the Early Childhood Educator's practical ideas, solutions and useful curriculums focusing on "SDGs" for young children. Thus, we can provide a viable education for all young children for creating a better and peaceful world.

International Association of  
Early Childhood Education



## 国際幼児教育学会「学会功労賞」

共栄大学  
山田 千明

### 「私と国際幼児教育学会と多文化教育と」

国際幼児教育学会（以下、本学会）への感謝の気持ちを込めて、自身の歩みを振り返ってみたいと思います。

私はワイフワークとして乳幼児期からの多文化教育に取り組んでおります。多文化に関心をもった契機は、高校時代における AFS 交換留学生としての1年間の米国滞在でした。自文化を相対化して説明することの難しさを痛感し、帰国後は日本の大学で「比較文化」を学びました。

大学卒業直前に結婚、夫は大学院生だったためまず私が就職、4年後夫が就職したのを機に私が大学に戻りました。研究生時代に出産、長女が生後2ヶ月半のとき大学院入学。修士課程では松原達哉先生（本学会元会長）のご指導の下、帰国中学生・高校生と帰国生を受け入れる生徒との関係について研究し、異質なものへの理解と寛容を考えました。修士課程修了後、夫の在外研究に同道して米国に滞在、長女は現地の幼稚園に通い、米国生まれの次女も加わり約2年後帰国しました。その後、大学院に戻り、博士課程の比較・国際研究室に入り、外国人児童の受け入れの問題へと視点を展開させていきました。

幼児期を米国で過ごした長女の母親としての経験も含め、人間形成に重要な意味をもつ乳幼児期にウエイトを移していた頃、異文化間教育学会に参加、そこで齋藤法子先生（本学会海外副会長）と巡り会い、ダーマン - スパークスらの提唱する米国のアンチバイアス教育についてお教えいただきました。「私のやりたい研究はこれだ」と、宝物を探り当てたようなあの時の衝撃は今でもはっきり覚えています。齋藤先生から本学会のこと、そして、なんと会長（当時）は恩師の松原先生と伺い、その年の本学会研究大会に参加、即入会希望を伝えました。谷口正子先生

（本学会名誉会員）からも文献紹介をはじめ温かなご指導いただき、1996年には八谷美幸先生（本学会海外副会長）にお世話になりパシフィックオークス大学でアンチバイアス教育の調査をすることができました。その後、私は保育者養成系の短大に就職、科学研究費補助金の交付を受け、外国人乳幼児が渡日前に受けていた幼児教育や保育について調査するため、米国、日本各地はもちろんのこと、台湾、韓国、中国、ブラジルでフィールドワークを行い、韓国での調査では鄭錦子先生（本学会海外副会長）に大変お世話になりました。そして、調査研究の成果は、本学会を中心に個人発表、シンポジウム、そして機関誌への投稿論文等、編著書として公表してきました。

多様性を尊重する心を育むための環境構成にとりわけ関心をもつ私にとりまして「絵本」は重要な文化財です。2015年には宮地敏子先生を中心に本学会に「絵本部会」が発足され、年次大会におけるワークショップや部会企画シンポジウムに宮地先生からのお声掛けで積極的に関わり、絵本を多様な視点で読み合う楽しみをかみしめております。

私の人生の要所要所に本学会の会員の先生方がいらっしゃるなければ、子連れ学生だった私が幼児教育研究に足を踏み入れ、幼児教育現場の先生方向け研修の講師として、また、保育者養成大学で教員として日々多文化教育の重要性について学び合うという経験を重ねることはできませんでした。私は、本学会入会以来ずっと世界各国から集う会員の先生方との交流を通して、多文化共生時代の幼児教育について楽しくまた充実した意見交換・情報交換をさせていただくことに大きな喜びを感じております。心より感謝申し上げます。



## 国際幼児教育学会「研究奨励賞」

武蔵野大学 教育学部 幼児教育学科

松田こずえ

### 「ノルウェーの保育カリキュラムの改革動向： 男女平等に向けた取り組みに着目して」

このたびは、研究奨励賞という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。ノルウェーの幼児教育について研究してきたことをこのような形で認めていただき、非常に光栄に思っております。受賞を励みに、今後も幼児教育に関する研究を続けていく所存です。

本研究は、男女平等社会とみられるノルウェーの保育に着目し、ノルウェーの保育カリキュラムにおいて、どのように男女平等が目指されてきたのかについて、その改定の経緯と変遷の内容を明らかにし、日本の保育を考える上での示唆を得ようとするものです。

男女平等先進国として知られるノルウェーは、1960年代以降、性別役割分業意識が根強い保守的な社会から、男性と女性とが共に労働や育児を分担する男女平等社会へと変化してきました。その変化の過程では、労働政策や育児政策だけでなく、保育政策においても、男女平等を推進するための積極的な取り組みがあったことが先行研究により

明らかにされています。また、伝統的な性別役割のステレオタイプなジェンダー規範を持たずに子どもが育つための取り組みがあることについて、ノルウェーの国内外の研究が蓄積されています。ノルウェーの保育施設は、公立園私立園いずれも、国が定めた保育カリキュラムに則って保育を実施しています。保育政策が保育カリキュラムの内容にどのように反映されているのかについて、男女平等の観点から経緯を追うことの必要性があると考えました。

そこで、本研究ではノルウェー社会が男女平等社会に変容を遂げる過程で、どのように保育カリキュラムの中で男女平等が目指されてきたのかについて検討しました。ノルウェーで、幼稚園と保育所が保育施設 (barnehage) として統一された1975年以降に発行された保育に関する政策文書の中で、3回にわたって改定された保育カリキュラムを分析対象とし、社会的背景と共に時系列に沿って検討しました。また担当省庁、政権、就園率、国会における女性議員の割合、国民における移民の割合についても検討しました。



保育カリキュラムの改定動向を分析した結果として、以下の二点が明らかとなりました。第一に、保育施設における男女平等への取り組みは時期により3つのステージに分けられ、段階を追って、男女平等が目指されたことが示されました。それぞれのステージにおいて、①ステージ1 (1975-1994) では男性中心の社会から男女平等社会への変容、②ステージ2 (1995-2009) では保育の「質」の向上と男女平等、③ステージ3 (2010-2017) では多様性を尊重する平等社会の実現が目指されたことが明らかとなりました。男女平等の視点から分析することにより、保育カリキュラムの内容の改定は社会的背景や政治の影響を受けていたことが示されました。

第二にノルウェーでは、保育施設は子どもたちの養護と教育を行う場としてだけでなく、社会の変革に影響を与える可能性を持つ場とみなされていたことが明らかとなりました。幼児の性別に関するステレオタイプに関して保育施設の保育内容が重視され、保育カリキュラムには保育者が子

どもの男女平等を促進するための取り組みの方法が明示されていました。保育者が言動を通して、男子と女の子に伝統的なジェンダーの役割を押しつけることなく、平等に接することが目指されていました。また、子どもたちが日中を過ごす保育施設にて性別や国籍その他によって差別されずに多様性を尊重した平等な社会を幼児期に体験することが、大人になってから平等な社会を築くことにつながると考えられていたことに注目することができました。

本研究を通して、男女平等社会に向けた幼児教育における実践についての示唆を得ることができました。今後の課題としては、ノルウェーの保育者の男女平等に関する意識について調べることや、男女平等や多様性の尊重と保育政策との関わりについてさらに検討することを考えています。

International Association of  
Early Childhood Education



予告

WEB  
開催

## 2022年度 国際幼児教育学会第43回大会

第43回大会実行委員長 椎山克己

第43回大会は第42回大会と同様にオンラインで開催いたします。  
現在、大会HPを開設し1次案内を掲載しています。  
大会参加方法等については2次案内(5月上旬)でお知らせいたします。  
多くの方の参加をお待ちしています。

大会テーマ

### 「持続可能な社会実現のための幼児教育」 ～SDGsの視点から考える幼児教育とは～

2022 9/24(土) シンポジウム | 2022 9/25(日) ワークショップ・部会 | 2022 9/24(土)～10/7(金) 研究発表

第43回大会HP <https://www.iaece43.jp/index.html>

午前  
ワークショップ

#### ① ワークショップ「アート保育」

アトリエ REI レイこども舎 岡本礼子

「アート保育」では、生活の中に、「アート」感覚を取り入れる取り組みをしています。保育園では、「色・カタチ・素材」を日々の遊びの中に取り入れています。今回のワークショップでは、「色」をテーマに準備をしたいと思います。「色」は生活の中に溢れています。「色」を意識してみると、生活の中の「色」がもっと見えてきます。同じ色も素材が違えば、違って見えます。日々の保育や生活に「色」を意識して取り入れてみませんか？光や水を使って遊べないかとアイデアを集めています。

#### ② ワークショップ「身体を使って表現してみよう！」

大阪成蹊短期大学 範 衍麗

保育現場ですぐに使える身体表現をご紹介します企画です。私たちはこれまで身体表現について、あまりにも個人の能力に焦点を当て過ぎていたのではないかと考えます。身体表現は、表情とともに身体の動きを通して感情などさまざまなものを伝える手段の一つです。手で表現したり、身体で表現したりする遊びを通して、他者と同期した喜びや達成感を共有することができます。もっと気持ちを楽にして、身体表現遊びを一緒に楽しんでみませんか？

午後  
部会研修

#### ④ 絵本部会

『共に生きる形の再考—Storytimeでひとを結びコミュニティを創造する試み—』

前回ワークショップ《グローバリズムを育む絵本》では、様々な立場で子どもに寄り添う発表者が、絵本との多様な関りを紹介しました。しかし、発表者のお一人石川由美子先生は、多様さの中にも通底する見解「お互いを尊重して共に生きる」が見られると述べられています。43回の絵本部会ワークショップでは、その石川先生の前回ご発表「Storytimeの時間だよ。『絵本の読み合い遊び』だってさ！」を深化発展させたものです。さらに共生を意識した絵本を使った幼児教育の在り方について、再び石川由美子先生のお話を伺い考えます。

#### ⑤ 音楽部会

日本とノルウェーの音楽教育からみるSDGsの視点を考える

日本とノルウェーの「子どもの歌」に着目し、現在のノルウェーの子ども達が実際に行っている活動と、日本との比較について発表を行います。日本でも耳馴染みのある曲や、ノルウェーの生活習慣や文化から生まれ継承されてきた「子どもの歌」についてSDGsの視点から、持続可能な音楽教育の可能性について深く検討していく予定です。二宮貴之(聖隷クリストファー大学) モーテン・J・ヴァテン(聖隷クリストファー大学)

## バーチャル保育園見学ツアーの提案

保育園の見学をしたいという希望はあっても、ニューノーマルの時代に入り、様々な制約があります。自宅にいながらのリアルな見学ツアーができないものかと思案している昨今です。まずは、このようなツアーを計画してみました。いかがですか？どのように実現できるかまだまだ問題載積です。みなさまのアイデアをお寄せください。

### 1 保育環境の視点をおいてのバーチャル見学ツアー 千葉明德短期大学 古賀 琢也



明德そでの保育園では、保育環境を中心としたリアルタイムでの映像中継を行うことを計画しています。リアルタイムでの中継とすることで、チャット等を用いて参加者から直接質問をいただき、その場で疑問や日々の様子について保育者とやりとりすることができます。また、録画と異なり「～(の場所)を見たい」などの要望に応じて、中継する場所を調整できるため、実際に訪ねたように見学して回ることができるのではないかと考えています。初の試みであるため、子どもたちがいない時間帯での見学とはなりますが、園長や保育者がこだわっている環境構成や工夫から、日々の姿を想像していただくと幸いです。

### 2 描きたいから描く子供たち。たのしく絵を描いてほしいな アトリエ REI レイこども舎 岡本礼子

絵を描きたい気持ちはどこからくるのでしょうか。水たまりがあるとついあそびはじめてしまう子供たちの姿があります。それと同様に絵を描く行為は、やってみたい活動ではと考えます。どんな画材を使って、何色にしようかな。色々な方法で紙に一本の線を描く、それは0を1にした瞬間なのです。小さな決断ですが子供自身の決断です。絵を描くことが面白くてたまらない子供の好奇心がお見せできたらいいなと思います。絵を描くことは遊びです。1歳児から5歳児までライブでの活動でお見せできるといいなと思います。が、個人情報の管理などの大きな課題があります。



### ■ 機関紙編集委員会

委員長 上田 敏文

機関誌編集委員会からのお知らせです。29号へ多数の投稿論文がありました。ありがとうございます。現在、委員会において査読中です。また、現在、J-stageには、20巻(2012)から28巻までが掲載されております。ご活用ください。引き続き、過去の号に遡り掲載する予定です。

### ■ 会報委員会

委員長 岡本 礼子

会報は年11月、4月の2回発行しています。海外の情報をお持ちの学会員のみならず、興味深い伝えたい原稿をいただきたいと考えております。これまでの会報もHPでご覧いただけるように準備しております。

### ■ 研究委員会

委員長 山岡 テイ

1月22日の第51回Zoom研究会開催後、情報委員会によるYouTube配信も320回数越えて多くの方々にご視聴いただきました。第52回研究会は大庭三枝先生(福山市立大学准教授)を迎えて、被爆アオギリの紙芝居も交えた『平和教育』をテーマに7月初旬に開催予定です。詳細は学会HPをご覧ください。

[http://www.iaece.org/s08\\_studyGroup.html](http://www.iaece.org/s08_studyGroup.html)

### ■ 渉外委員会

委員長 森 貞美

国際幼児教育学会第43回大会シンポジウムにおいて、海外の副会長・理事・会員による発表が予定されています。この機会に学会員の皆様の活発な国際交流を期待しております。

### ■ 海外研修委員会

委員長 劉 郷英

海外研修委員会では、以下のような「国内外の保育施設のVirtual Tour研修」を企画準備しています。

- ① 古賀琢也理事及び岡本理事による「日本での試験的な試み」
- ② 福井事務局長及び山本会員による「タイのバンコク市内の保育施設」のVirtual研修
- ③ 劉郷英委員長による「中国の浙江省安吉県にある「安吉遊戯=ANJI PLAY」プログラム実践園」のVirtual研修

### ■ 定款・規程検討委員会

委員長 森 貞美

定款・規程検討委員会では各種委員会規程の整備を行いましたが、現在、その他の規程についても検討を行っております。学会の円滑な運営に寄与できるように努めてまいります。

### ■ 学術貢献賞推薦委員会

委員長 天野 美和子

今回、新たに設けられることになった「学術貢献賞」について、その目的や本学会における位置づけ、授与対象、選定等の規定の具体案について、現在ある二つの賞の規定と照らし合わせながら叩き台を作成しているところです。具体案については、次回5月の執行部会で提示して検討する予定です。

### 部会報告



#### 絵本部会会員募集のご案内

事務局 玉川大学教育学部 松本由美

日頃から絵本に関心をお持ちの学会員のみならず、共に絵本文化を豊かに育てていきませんか。毎年学会開催時に、多文化共生に立脚した部会員の多様な企画を協働で運営し発表しています。活動の様子は絵本部会通信でご覧頂けます。参加ご希望やお問い合わせは、(ymat@lba.tamagawa.ac.jp)



#### 音楽部会 活動報告

事務局 上田 浩平

2022年2月27日(日)に、聖隷クリストファー大学の二宮貴之氏、「モーテン・ヴァテン氏による研究発表をオンラインにて開催しました。『幼児の音楽教育に通じるSDGsの視点とは?~日本とノルウェーの「子どもの歌」を中心に~』と題し、ノルウェーの音楽の保育実践動画を視聴し、日本との比較を発表して頂きました。

### 支部報告

#### 九州・沖縄・山口支部の今後の活動について

支部事務局長 久世安俊

九州・沖縄・山口支部では、今後の活動としてアジアの玄関口とされる地域性を活かした活動の展開を考えています。この1年は「多文化共生の保育」について見識を深める企画を検討しています。専門家による講演、実際に多国籍の子どもを受け入れている園の現況や取組の紹介など、保育・教育現場で活用できる異文化リテラシーの機会となる支部会を令和5年2月頃に開催する予定です。詳細が決まり次第、お知らせいたします。